紙面の最も廣き新聞紙なり

時事新報には毎號詳細なる商況物價の報告あり

時事新報社電話番號 百四

新報

明治廿七年三月廿四日 土曜日

舊暦甲午二月十八日（乙丑）

日出午前五時四十一分

日入午後五時五十四分

月出午後八時五十分

月入午前六時四十九分

滿潮 午前七時四分 午後七時二十二分

（西暦一千八百九十四年）

年始より 八十三日

年末まで 二百八十二日

月

…紹介し且つ其獎

…る所なり由て時

…此美術の進歩如

…達し其技に熟し

名家

…所に從て毎月其

…なる彩色石版刷

…生の愛讀者に

…來年三月に至り

…の手に成りたる

…て大に讀者の心

…するの具たる

…月五日を以て

…として時事新

一附錄

忠氏

…ば身は忽ち百

…あるべし

…（東京市外

…臨時に紙數を

…申込まるべし

…なる商況物

…後に…を要す）

…〇三箇月 前

…拾五錢〇一箇

…他大祭祝日年

…を以て返戻す

…て又廣告料の

…被下度候

…山、元山津

金拾三錢

…くは神奈陀を

金六拾錢

金三拾錢

…太平洋諸島、濠

金六拾五錢

金三拾五錢

…七日以上

…十錢五厘

廣告料定價 時事新報の廣告料は都て定價の通り申受くる筈なれども取次人の内には往々定價以下にて引受くる者ある由今後斯る事實を發見する時は直ちに其取次人に對し本社廣告の取次を謝絶する事もあるべき旨に付豫め廣告依賴者諸君に公告す

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を填塞するより各社同一の記事を揭ぐるもの寡からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依賴せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も尠からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報社に達したる投書の原稿は凡て寄稿者に返戻せず又本社に保存せず

時事新報

終に二大政黨に歸す可し

我輩曾て今の所謂武斷硬派と文治軟派とは或は後來我政黨の依て以て分るゝ所の元素たるべしとの言を述べたり今復た爰に一歩を進めて更に其意味を明にせんに今日全世界中立憲の政體を立て之に由て政治を行ふもの一にして足らず苟も文明國と稱する國に在ては恐く皆此政體に依らざるものなしと雖ども其體裁の最も美にして眞に立憲の名實を備ふるものは英國に如くものなかるべし英に保守と自由との二大政黨を分ち互に其主義綱領を執りて一歩も退かず一毫も讓らず互に政權を爭ふて他の隙を窺ひ一勝一敗多數を占むれば政權を執て在朝黨となるべく一朝人望を失へば自から退て在野の反對黨となるべし政權を執ればとて誇るに足らず、失へばとて耻るに足らず眞に士君子の爭にして匹夫下郎の喧嘩にあらず又その主義とする所を尋るに保守必ずしも守舊頑固ならず自由亦粗暴輕率に非ず齊しく進運の中に在て各其一局部を働くものなりと雖ども已に黨派を分つ以上は自から其趣く所を異にせざるを得ず即ち保守黨の主義とする所は民權の伸暢よりも寧ろ國權の擴張を主とし地方分權を悅ばずして中央集權を希ひ專ら武備を盛にして對外强硬の手段を執り殖產興業運商の事に至ては政府自から進んで誘導保護の任を盡くし敢て之を人民の自由に放任するを欲せず事々物々從來の習慣を重んじて濫に未來の進步を企てず一步一步徐ろに立脚の地位を固て進步する者是なり又一方の自由黨は先づ第一に民權の伸暢を主唱し徒らに國權の擴張に重きを置かず地方分權を主として中央集權を厭ひ武備の一點には左程重きを用ひずして外國に對しても常に靜謐を旨とし殖產運商の事は全く人民の自由に放任して敢て之に干渉することを好まず一心一向に革進改良を目的として進み其進步の際に妨碍するものあれば如何なる古來の習慣をも排除して憚る所なく漸々歩を進めて止まざる者即ち是なり尚ほ此外に今の英國には聯合黨と唱ふる一小黨派ありて自から三黨三分の姿なれども元來此聯合黨と云へるは具氏の愛蘭自治法案に反對して一時自由黨より分離し暫らく保守黨と相提攜する者なれば自治法案にして一朝落着の場合に至れば再び舊の自由黨に復歸す可きが故に英國の政黨は本來保守自由の二派あるのみと云ふべし抑も此二政黨は一時の感情一身の愛憎に依て遽に生じたるにあらず幾百年の經驗を積み幾多の改革を經て初めて今日の盛況に達したるものにして自から人間の性情に由來する所あるを見る可し而して此性情は祖先の遺傳に由るか又は教育交友の結果より來るか自から學者の說もある可けれども其論說は暫く擱き兎に角に人生には或は守成愼重に傾くものあり或は進取活潑に傾くものありて生來既に保守と自由との二流に分るゝの事實を見る可し例へば爰に一團の朋友を相會して其の言語擧動を窺ふに座中或者の言語擧動は鄭重にして自から老成の風ある其反對に一方には言行活潑にして自から進取の氣象を示す者あり一は動もすれば圭角を現はさんとし一は專ら圓滑を旨とし此れは剛硬を主とし彼れは軟柔を悅ぶ等其趣決して一樣なるを得ず男女老若貧富貴賤相對するときは必ず此邊の區別あるを見る可し或は心事開濶にして物に頓着せざる具眼有識の君子に在ては平常能く自心の釣合を制して敢て一方に偏せざる者もあるべしと雖も其然る所以は平生の教育鍛錬の効に由て偏する所除り過度ならざるが爲め外形一見公平なるに似たるのみ一步を進めて細密に其人の言論擧動を吟味するときは尚ほ其偏癖ある所を窺ふに足るべし人間本來の性に於て免かる可らざる所なればなり左れば英國二政黨の由て以て分るゝ所は此二樣の性情に由來するものにして英政の美なる所以も亦畢竟し此中に存するのみならん我國の政黨は創始以來日尚淺く隨て其黨派も四分五裂の有樣にして甚だしきは朝に起て夕に倒るゝものあり一起一倒盛衰常ならず就中今の政海に在て稍や重きをなすものには自由改進國民の三派ありと雖ども是れとても或は一事一人の感情に依り或は一時一所の便利より成立つものゝ如くして其感情去り便利盡くれば今日までの政友も忽ち氷炭相容れざるの政敵となり一離一合恰も狼狽の渦中にあるものゝ如し紛々擾々何れを其れと識別すること易からずと雖も心を靜にして大勢の流行を窺ふときは政海の底深き所、幽かに二大政黨の種子を胚胎するの事實を發見すべし即ち今の所謂硬派軟派文治武斷の兩派こそ其種子にして今日正に發生の機を催はすものゝ如し固より硬派と云ひ武斷派と云ふも徹頭徹尾武力にのみ依賴して政權を維持せんと欲するにあらず假令ひ内心に其意あればとて今世の文明に許さゞる所なれども兎に角に從來の成行に就て之を考ふれば此流派は常に强硬の手段を執り民權論を後にして國權の擴張を先にし地方の自治を顧はざるにはあらざれども先づ中央集權以て大政府の位置を强めんと欲するものにして未だ一政黨の形をなすに至らずと雖ども其向ふ所の勢を察して精神の所在を窺へば稍や英の保守黨に類するものなり又一方に軟派文治派と云ふも決して文弱柔軟女子に齊しきものにあらず時としては强硬の手段に出でざるをとなしと雖ども全體より之を察すれば常に民意民權を重んじて萬事圓滑を主とし中央集權に重きを置かずして地方自治を主唱し武備を重んぜざるにはあらざれども稍や之れに冷淡なるものにして體裁こそ異なれ其實は英の自由派に類する所あるが如し即ち現內閣の如き是れなり假令ひ今日の實際に於ては未だ判然流派の區別も立たず其主義とする所も亦未だ定まらず硬派にして却て急進を學び文治派にして却て守成を氣取る等の奇觀なきにあらざれども大勢の趣く所に由て之を考へ人の性情に照らして成行を想像すれば後來我政黨も亦必ず此二派に分れて漸く立憲政の美觀を呈することなる可し我輩は今日より竊に期して其時機の到來を待つ者なり

雜報

○信府日報社の被告事件 に就ては其節の紙上にも揭げたることなるが同社が新聞條例違犯の廉を以て告發されたる際印刷器械を封印せられたる處長野地方裁判所松本支部の豫審に於て新聞條例違犯にあらずして官吏侮辱罪なりと決定せられたる際封印を解くことなく又公判を經て無罪となり差押へ器械の還付を宣告せられたるも川久保檢事より更に官吏侮辱罪の廉を以て東京控訴院に控訴に及びたる際には封印は依然其儘なりしより同社にては同檢事に其解除を請求せしに檢事は右は控訴院檢事に願出づべしと述べ控訴院檢事に請求すれば右の控訴は官吏侮辱罪として受けたるものにして新聞條例違犯の控訴を受けたるものにあらざれば新聞條例違犯に附隨したる器械差押への事に關しては預り知らずとて其請求を受付けざるより再び川久保檢事に請求すれば一應控訴院檢事に照會して決行すべしとて徒らに時日を經過し居る中控訴院の公判に於て官吏侮辱罪に決定し差押へたる器械は還付すと判決したるより初めて器械の封印を解かるゝを得たり右の如く新聞條例違犯にあらざると確定せる際にも器械の差押をなし置くが如き已に地方裁判所に於て器械還付のことを判決したる際にも猶ほ且つ封印を解かざるが如き又第一審檢事と第二審判事と見解を異にしたるが如きは新聞業者に取り尠からざる利害を感ずべき法律上の疑問なればとて同新聞にては一篇の論文を附錄となして同業者其他一般に配布したりと云ふ

○產婆開業試驗 本年春期の產婆開業試驗は一昨日より愛宕町なる醫術開業試驗場にて執行せり學說試驗は一昨日終結し實地試驗は昨日より東京府廳內に於て執行したり而して本年度の志願者は本免狀下附出願者五十二名にして假免狀の分二十名なりしと

○紀念郵便切手 去る九日の大典に付き發行したる郵便切手は外國人に需用多く中には一口に數百圓丈け買入れて本國へ送りしものもある由上海郵便局にても半時間餘りの內に悉く賣盡し電報を以て直ちに[illegible]術を注文して其着を待つもの多しと

○大婚御祝典に就ての寄附金 本月九日大婚二十五年御祝典御舉行在らせられたる際日本赤十字社は奉祝のため蒔繪の御掛額一對を獻上せしに就き埼玉縣正社員瀧田紫太郎愛知縣岡花紫藤治の兩氏は右御掛額調製費の內へ金若干圓宛を寄附し又岡山縣特別社員金光大陣氏は社務擴張のため金百圓を寄附せりと

○越後石油を朝鮮に輸出せんとす 新潟縣下長岡町なる越後製油會社の一手販賣店志賀石油商店にては今度石油を朝鮮に輸出せんことを計畫し昨今調査中のよしにて近々實行…を設立し同地にて專ら右…込なりと云ふ

○追福盆景大會 …主と爲り細川流盆栽家故…追福の爲め今二十四日日…於て諸流盆景大會を開く…松平康氏、松平直哉、青山…觀篤、藤堂高義等の諸華…他諸氏賛成員にて當日陳…彌流鳳早流清原流日野流…田流石州流遠山流高野流…より午後五時までなりと…

○兩優相稱贊す …贊するは藝術上實に…座の二番目に於ける妹…の至藝を稱贊して措かず…妙技を善める由に聞しが…五郎の性室眞高、富氣相…點なく噴前斷後の…役を勵めんことを知らず何…俺かぬ妙技なりとて感る…三度觀たりといふ

○川上座の三十日… …爲し愈昨廿三日を以て…上座は開場以來州日間…する程なりしが新俳優各…を爲せし者なきのみなら…り納子一座の興行を初め…受け九嶽多賀之丞等にて…にて閉場し今度の如き…

○新刊雜…

●國華 今月發行の五十…る論文の外に風倉覺三氏…篇ありこは氏が支那漫遊…より各趣味を異にせる…增して李安忠の鶉圖、光…扇面花卉圖及び赤童子…鮮かなり殊に赤童子は…れたるは勿論のを之を…兩氏の謝前も亦稱する…宮眞賦なれども寫し…微密なる樣式を想像す…して密なる乾山の謀に…說して靈妙閑雅なる…なりと云ふべし（定價一…

●書畫名家詳傳 古今の…げたれど極の略傳なれ…（著者京都上京臨寺町…

●詠史歌曲集 楠公小…上に留めたる人を詠じて…美靜氏題して曰くこれ…もうれしかなしとな…原町雅藝會）

●[illegible]

●[illegible]

●[illegible]

●[illegible]

●日本人（十二號）